

専任教員教育研究業績

平成29年 4月 20日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
谷口 征子	たにぐち ゆきこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	男・ 女

担 当 科 目 名

情報処理論 言語表現

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成11(1999)年3月	国立高知大学 人文学部 経済学科 卒業	学士 (経済学)
平成19(2007)年4月	愛知教育大学大学院教育学研究科 修士課程 国際理解教育専攻 入学	
平成22(2010)年3月	愛知教育大学大学院教育学研究科 修士課程 国際理解教育専攻 修了	修士 (教育学)
平成26(2014)年4月	愛知教育大学大学院 博士課程 共同教育開発学専攻 入学	

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
愛知県立高等学校 教員	～平成25年3月	商業・情報科 主な科目「原価計算・情報処理・ビジネス情報・社会と情報」
愛知教育大学	平成25年4月～ 平成28年3月	非常勤講師 現代学芸課程 日本語教育コース「教職実践演習」
中京大学	平成26年4月～ 平成29年3月	非常勤講師 国際教養課程「大学生のための日本語」「日本語初級」
東京福祉大学併設 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校	平成27年4月～ 平成28年3月	非常勤講師 国際教養学科「ビジネスマナー」「会計学」「秘書学」「企業研究」「コンピュータ演習」
愛知教育大学 大学院修士課程	平成27年8月	非常勤講師 教育学研究科 発達教育科学専攻 日本語教育領域 集中講義「教育実習事前指導」
小田原短期大学	平成28年4月～	特任助教 「教育制度論」「教育課程論」「情報処理」「言語表現」
名古屋短期大学	平成28年4月～	非常勤講師 英語コミュニケーション学科「パソコン演習Ⅰ,Ⅱ」
東海学園大学	平成28年4月～ 平成28年9月	非常勤講師 教育学部「特別教育演習」
愛知県立千種高等学校	平成28年4月～ 平成29年3月	非常勤実習教員

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本語教育学会	2012年4月～現在	口頭発表 学会参加
日本保育学会	2016年4月～現在	
日本保育者養成教育学会	2016年10月～現在	

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
愛知県立衣代高等学校 「放課後日本語教室」	2013年4月から 2016年3月	愛知県立衣台高校において外国人生徒を対象にした放課後日本語教室開催(愛知県国際交流協会助成金による)

担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
高等学校教諭専修免許取得（情報）	2010年 3月	愛知県教育委員会		
小学校教諭専修免許取得	2010年 3月	愛知県教育委員会		
中学校二種教諭免許取得（技術・英語）	2010年 3月	愛知県教育委員会		
情報処理技術者試験合格 （初級システムアドミニストレータ）	2004年 5月	経済産業省		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
（著書） 外国人児童のための算数教材『らくらくさんすう』	共著	2008年3月	愛知教育大学	日本語が母語でない公立小学校に在籍する小学生を対象にした算数教材である。学校で使用している教科書に準拠しており、教科書だけでは理解が困難な児童の理解を促すために用語を簡単にしたりライト教科書となっている。問題の意図は変えずに語句のみ変換している。
（学術論文） 1 「外国人児童生徒を対象にした「読む力」を育成するための研究 - マップを用いた読解方略に着目して-」	単著	2010年3月	愛知教育大学	日本語支援が必要な児童生徒を対象にした読解力を育成するための研究を行った。言葉だけでは理解が困難なことが多く、読解方略として図解=マッピング技法を活用した。その結果、読解をスムーズに行うことが認められ、有効な手段であることが検証された。
2 「テキストマイニングによる大学生の意識変化の可視化-外国人児童生徒への学習支援活動を通して-」	単著	2013年3月	『リソースルームジャーナル』愛知教育大学 外国人児童生徒支援リソースルーム	大量のデータをどう扱えばよいか。数値化されていない記述式のデータから大まかな傾向は読み取れないか。テキストマイニングという手法を用いて、大学生が書いた課外活動の反省を書いた文章を読み込み、検証した。特に感情を表す形容詞の語を抽出し、その傾向を掴むことができた。
（その他） 1 JSL 児童生徒を対象にしたインフォーマルラーニング -ICT活用による書く力を育成するための一提案-（論集掲載研究ノート）	単著	2015年3月	愛知教育大学『教科開発学論集』3号	言語を獲得するためには、園や学校の授業だけでは勉強量が少ないため、授業外や家庭での自学習が必要である。しかし、年少者の特性上、積極的に机に向かって自ら学習することは容易でないと想像できる。そこで、楽しくゲーム感覚で学習することを目的としてスマートフォンを取り入れた学習の提案を行い実践した。
2 保育者養成教育における実践力を身につけるためのアクティブラーニングを活用した授業展開 -科目間連携の特色を生かして-（論集掲載研究ノート）	共著	2017年5月（予定）	小田原短期大学研究紀要第47号	子どもや保護者から信頼される保育者になるためには、保育に関する知識とそれを生かす実践力を備える必要がある。このような力を身につけるためには、保育者養成機関での教育の質を高める必要があると考えられる。そこで本研究においては「言葉」に焦点をあて、「言語表現」「情報処理」「教育制度論」と複数の科目で連携し、保育者養成教育において実践を行った。
その他（表彰等）				